

日本創造学会
Japan Creativity Society



JCS NEWS LETTER



第47回日本創造学会研究大会

2025/11/1(土)～2(日) 対面開催

開催会場:千葉工業大学津田沼キャンパス(対面開催)

大会テーマ:地域社会の活性化と創造性



三浦元喜
実行委員長



五郎丸秀樹
副実行委員



藤原由美実行委員
(プログラム担当)



古川洋章実行委員
(プログラム担当)



杉原麻美実行委員
(プログラム担当)

近年、世界情勢の不安定化が続き、経済・社会の先行きに不透明感が増しています。日本においても、観光業の回復とともにオーバーツーリズムの課題が顕在化し、地域の持続可能な発展が問われています。一方で、大阪万博2025の開催をはじめ、各地で新たな活力が生まれつつあります。こうした状況の中、私たちは「地域社会の活性化と創造性」に焦点を当て、持続可能で創造的な地域の未来について考えます。本大会では、創造的思考を活かした課題解決の方法ならびに、それを用いた地域の新たな価値創造につながる知見を共有する場としたいと考えています。

基調講演：創造性を育むまちづくり

三矢勝司氏

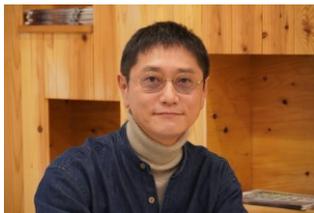
名古屋学院大学現代社会学部 准教授
岡崎まち育てセンター・りた 創業者

千葉大学大学院で参加型デザイン、まちづくり支援システムを研究(1999)。関東の建築事務所等での勤務の後、故郷岡崎でまちづくりNPO設立(2006)。2023年より現職。博士(工学)

まちづくり分野で「創造性」が問われるようになった一つのトピックスに1990年代の「創造型まちづくり」があります。当時、市民参加やワークショップ、協働といったキーワードが注目され、今に続くまちづくりにも大きな影響を与えています。

今回、ゲスト講師としてお招きする三矢さんは創造型まちづくりの実践者として四半世紀にわたる実績をもつ一方、2023年から大学で教鞭をとるなど、多方面で活躍をされています。

講演では、千葉時代に携わった市民参加による公共施設デザイン事例や、人々の創造性を育むまちづくりの実践例、さらに愛知県地方での取り組みを交えて「創造性を育むまちづくり」の実践と理論についてご紹介いただきます。



大会要項

【参加申込書】学会ウェブサイトよりダウンロード、ご記入の上、事務局に送付ください。

【会場】千葉工業大学津田沼キャンパス7号館1階フレキシブルワークスペース（FWS）
（千葉県習志野市津田沼2-17-1 JR津田沼駅徒歩2分、京成新津田沼駅徒歩3分）

【日程】2025年11月1日（土）～2日（日）

【発表申込締切】9月1日【研究発表論文/レジュメ提出締切】9月末日（厳守）

【内容】講演会、ポスター/インタラクティブ発表会、親睦会（1号館20F展望フロア軽食付き）
フェロー就任式、学会賞表彰式、総会報告、写真撮影等

【開催方法】対面開催（ポスター発表で希望者のみ収録動画によるオンライン発表）

【参加費】事前振込 学生（会員/非会員同額）2,500円、正会員3,000円、非会員4,000円
当日参加（共通）5,000円※現金のみ

【親睦会参加費】学生会員2,000円、正会員3,000円

【発表論文掲載料】4頁まで2,000円、1頁追加ごと1,000円

【ポスター発表レジュメ掲載料】A4/1頁500円 追加頁不可 ※書式自由A4

【大会論文集】研究大会論文集はPDF(ダウンロード)で事前配布

【発表について】

〈インタラクティブ発表の場合〉

- ・論文は所定のテンプレートに従って作成してください。※論文の査読はありません。
- ・発表は会員に限ります。非会員で発表希望の方は入会手続き後にお申し込みください。
- ・インタラクティブ発表（ポスター/机上での展示やデモなどを含む）とし60分間です。

〈ポスター発表の場合〉

- ・原稿に様式はありません。ただしA4サイズ1枚に納めてください（論文集印刷用レジュメは、手書き・絵・写真・図など、形式自由です）。
- ・発表は会員に限りますが、学生のみ非会員でも発表ができます。
- ・ポスター発表は45分間です。

※いずれの発表も仮説のままや実験途中の案件でも構いません。ただし事務局への原稿訂正の依頼は受け付ません。

【発表での注意事項】

- インタラクティブ発表では机を使用できます。ポスター発表は机は使用しません。
- インタラクティブ発表・ポスター発表ともに、幅82cm、高さ180cmのパネルを利用できます。掲示用のテープやピンは会場に準備いたします。
- インタラクティブ発表で電気を使用するデモ機器やノートPCを使用したい場合はコンセントは会場床にあります。インターネット回線（Wi-Fi）を使用できます。

スケジュール予定

※発表申込状況などによりスケジュールが変わる可能性があります

11月1日（土）

14:00	開場・ポスター貼付準備
14:15	オープニング
14:30～ 15:45	招待講演（60分+質疑15分）
16:00～ 17:15	インタラクティブセッション1（概要説明15分+回遊タイム60分）
17:30～ 19:30	親睦会（会場：1号館20F,軽食付） フェロー就任式・表彰式・総会報告

11月2日（日）

9:00	開場・ポスター貼付準備
10:00～ 11:15	インタラクティブセッション2（概要説明15分+回遊タイム60分）
11:15	休憩・入替え 15分
11:30～ 12:30	ポスターセッション1（概要説明15分+回遊タイム45分）
12:30	記念写真・クロージング

【宿 泊】

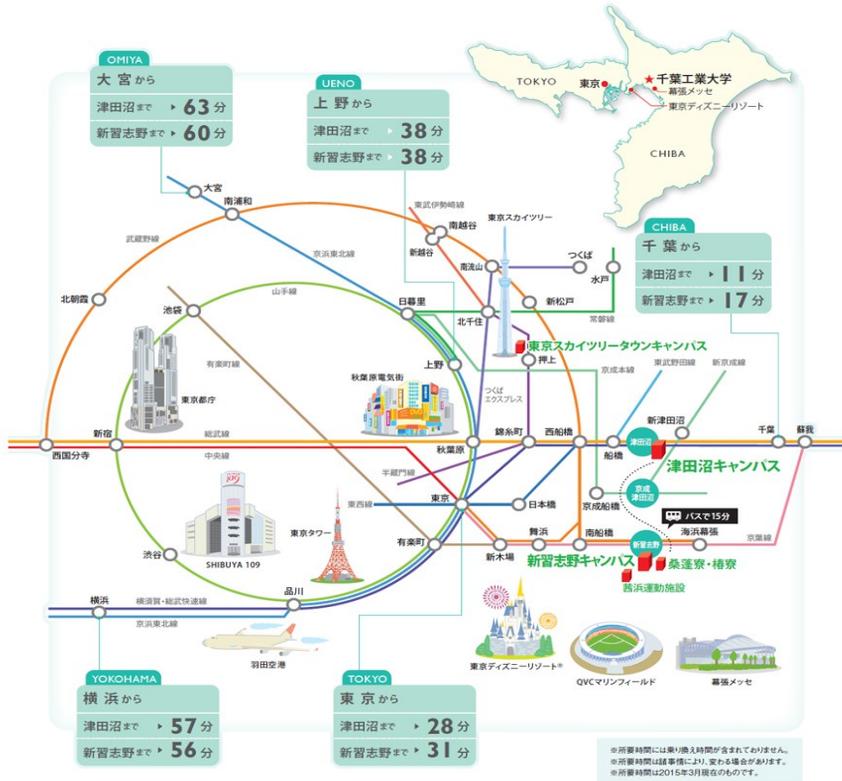
日程が3連休中のため早めの宿泊予約をおすすめします。ご自身で予約をお願い致します。

(津田沼近隣のホテル)

ホテルメッツ津田沼/船橋 2~4万円
 メイプルイン幕張 (幕張本郷) 1.6~2万円
 アパホテル八千代緑が丘 1.2~1.5万円
 市川グランドホテル (市川) 1.5~2万円
 カプセルホテルファミリー (津田沼) 男性のみ
 カプセルホテル系：船橋駅、千葉駅など

ベッセルイン京成津田沼 1.4~2万円
 東横INN 千葉駅前 1.2~1.5万円 (新鎌ヶ谷も)
 レオ癒カプセルホテル 船橋店 (船橋) 0.5~1.0万円
 天然温泉湯〜ねる (新習志野) 1.0~1.5万円

【アクセス】



▲▼▲第88回クリエイティブサロン (2025年3月29日) 開催報告▲▼▲

2025年3月29日第88回クリエイティブサロンがオンラインで開催されました。

日本学術会議協力団体 日本創造学会
 第88回クリエイティブサロン

参加費
無料



Think時代だからこそFeelを感じよう
井深ソニーのフロア経営

2025.3.29 Sat. 13:20-14:30

講師: 田村新吾氏
(株)ワンダーワークス代表取締役・日本創造学会副評議員長



田村新吾氏の講演は下記のURLからオンデマンドで視聴できます。
<https://youtu.be/CJLofhajitw>

学会賞受賞者の声

2024年度に学会賞を受賞された方の声をお届けいたします。受賞された研究の講演は6月8日開催の第89回クリエイティブサロンアワード受賞者講演会（Zoom）で視聴ができます。

論文賞 論文誌Vol.27



高瀬和也氏
鹿児島大学大学院
教育学研究科 助教

研究テーマ：『小学生向け課題設定支援ツールの開発と評価 「図書室の改善」を題材としたデザイン思考の共感・問題定義プロセスによる学習』

この度は、学会誌Vol.27論文賞を賜り、誠にありがとうございます。大変光栄に存じます。査読者・編集委員会の先生方に厚く御礼申し上げます。

本研究は、デザイン思考における「共感(Empathize)」「問題定義(Define)」のプロセスを、身近な学習対象から問いをつくるという小学校での授業に応用し、その教育効果を課題設定に対する児童の意識や児童の生成する問いの質といった観点から検証するものであります。

本研究に至った着想としては、「よい課題が設定されない限り、よい解決策は生まれない」という立場から、解決の過程ではなく課題設定の過程に創造性を発揮させたい、というものです。

残された課題として、学習対象ごとにどのような他者を想起させることがよりよい課題設定に必要なかを追究しながら、今後も学校教育における創造的な問題解決学習の展開に寄与して参りたく存じます。

第46回研究大会 発表賞



古川洋章氏
北九州市立大学准教授

研究テーマ：異なるペルソナを持つマルチLLM を用いた合議制アイデア評価システムの提案

この度、日本創造学会第46回研究大会において発表賞を拝受いたしましたことを、大変光栄に存じます。本研究では、生成AIの一種である大規模言語モデル(LLM)の出力結果に関する正確性の問題に対処する新たな手法を提案いたしました。この手法は、複数のLLMに個別の人物像を設定し、相互に議論させることで正確性を向上させることを目的としています。

さらに、この手法をアイデア評価へ応用することを目指し、アイデア評価システムの研究開発構想についても発表いたしました。研究大会では、提案システムのプロトタイプを実装し、その一連の動作を実演するとともに、活発な議論および貴重なフィードバックをいただきました。

今後は、これらのご意見を踏まえて提案手法およびシステムを一層洗練させ、研究の有用性を明確化するとともに、LLMの創造性分野における応用可能性を広げることに貢献してまいりたいと考えております。

第46回研究大会 学生発表賞



熊谷彩乃氏
法政大学専門職大学院

研究テーマ：別領域との組合せを促す新たなアイデア発想モデルの構築

この度は、日本創造学会第46回研究大会において学生賞をいただき、大変光栄に思います。当方の研究にご関心を寄せていただき、有益なご意見をくださった方々に心より感謝申し上げます。お陰様で、法政大学 専門職大学院 イノベーション・マネジメント学科の修士論文においても、優秀賞を受賞することができました。本研究では、企業の新規事業創出や問題解決を支援するためのアイデア発想法「AYモデル」を提案しました。「AYモデル」は、異なる分野の要素を組み合わせることで新しいアイデアを生み出すことを目的とし、大喜利形式の問いを活用して発想の枠を広げる点が特徴です。急速に変化する現代社会において、柔軟な発想力が求められる中、このモデルが企業や個人の創造的思考をサポートする一助となることを願っています。今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

第46回研究大会 ポスター発表賞



石井力重氏
アイデアプラント代表

研究テーマ：Imagine Card 変な動きで想像力を刺激する！20の指示カード

このたびは栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。受賞対象となった「イマジンカード」は、遊び心のある動作やユニークな発想を促す指示が書かれたカードセットです。身体的な動きを通じて参加者の想像力を刺激し、コミュニケーションを豊かにするアイスブレイクツールとして開発しました。

開発過程では多数のワークショップを実施し、「自然に笑顔が出た」「短時間で場の雰囲気が和らいだ」「想像力が促進された」「アイデアが出しやすくなった」などの嬉しい声を多くいただきました。この受賞を励みに、今後も楽しさと創造性を融合したツール作りに取り組み、多様な人々の創造的交流を支援してまいります。引き続きご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

KICSS2024開催報告

International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems (KICSS)

報告：國藤進・三浦元喜

本学会も共催する第19回国際会議KICSS2024が、2024年12月5日～7日にインドネシア・バリ島のGrand Istana Rama Hotelで開催された。現地参加者数は20名、オンライン参加者数は8カ国から33名、投稿件数30件、採択数16件、採択率は55%であった。

基調講演は3件行われた。まず、Bali Dwipa University副学長のLidia Sandra先生が「社会インタラクションによって形成される性格予測モデル」について講演された。続いて、JAISTの西村拓一先生が「専門家の持つ卓越した暗黙知を構造化する手法」について講演された。2日目午後には、長岡技科大学の羽山徹彩教授が「人間の活動を高度に認識する技術」について事例を交え紹介された。招待講演では、BINUS University博士課程の社会人学生が「銀行における機械学習とリスク評価の活用事例」と「オンラインゲームにおける仮想アイテムの経済的価値向上のための取り組み」について発表を行った。

受賞者も多数輩出された。三浦元喜教授（千葉工大）がCompetitive Short Paper Awardを受賞した。また、由井蘭隆也教授の社会人後期学生2名（西沢智子、人見健三郎）がHonorable Mentionを受賞した。

内容面で特に興味深かったのは、AI技術を活用した研究発表である。京大伊藤孝行教授グループは、OpenAIのChatGPT-4oを応用したブレインストーミング支援システムを発表し、また北大山下倫央准教授グループは、大規模言語モデルを用いた俳句評価システムを発表した。特に、ChatGPT-4oの応用として創造学会で頻繁に使用されるKJ法の自動生成システム「KJ-GPT」が実装されたことは、AIの知と人間の知の共生を示唆するものであった。そのためにも、AIのデータセットの整備が必要であり、KJ法の最初のステップである「テンペア（ぶらぶら歩き）」によるフィールドワークの重要性が再認識された。

次回、第20回KICSS2025はアオーレ長岡（新潟県長岡市）で12月3日～5日に開催される予定である。羽山教授が中心となり準備を進めており、おいしい蕎麦と鮭、日本酒を楽しみながら学術交流を深められる機会となるだろう。会員の皆様には、ぜひご参加・ご発表いただきたい。また、第21回KICSS2026は、再びタイでの開催が予定されている。



映画出演を通して触れた「曖昧な共鳴」という創造性

大塚隼輝 日本創造学会
デジタル推進委員
株式会社有田まちづくり公社

私は現在、佐賀県の有田町に住んでいます。昨年10月に知人の映画監督から、この有田を舞台にした自主制作映画の俳優をやらないか、と誘われました。その出演時に感じた、創造性との関わりについて書きたいと思います。

映画『もどらないかげ』Instagramアカウント: [@tsuchikone_film](https://www.instagram.com/tsuchikone_film)



物語で重要な存在となる洞窟と、その中にたたく筆者 撮影：吉岐成太郎 ([@seitaroiki](https://www.instagram.com/seitaroiki))

映画『もどらないかげ』に出演した経験は、私の中にあった創造性の輪郭を微かに浮かび上がらせた。その中心にあったのが、「曖昧な共鳴」という言葉だった。

作品全体を通して感じられたのは、明確な解答や構図に頼らず、ドラマティックな物語を描こうとしない、あえて人物描写の輪郭をぼかした演出だった。印象に残っているのが、「人間もそんなに詳しく描くことは必要じゃない」という監督の発言と、共同生活をする中で共演者が発した「皿洗いをしようと思ってもう7分経った」という何気ない言葉だ。日常に潜むぐずぐずした感情と、無名の個人の人生を描く映画制作。そのあいだの響きあい。これは撮影の合間に読んだ、パク・ソルメの『もう死んでいる十二人の女たちと』やパク・スリンの『静かな事件』といった韓国文学にも見られる、乾いた筆致で描かれる生活感の揺らぎと同じ質感だった。

さらに作品内では、登場人物たちの演劇と地元民への取材ドキュメンタリーが同列に扱われる。それだけにとどまらず、互いの境界を乗り越え、ついには浸透までしてしまう。個体としての人物像が曖昧なだけでなく、その存在する時空間までも徐々に拡大していき、観る者の脳内でひっくり返る。上映試写会において、私はその緊張と危うさに震えた。実話のようなフィクションと、嘘のような本当の話。幽霊じみたキャストの演技が、インタビュイーの肉声と絡み合い、土地が内包する“霊性の劇”を立ち上げていた。

このようなクリエイティビティを支えるのは、単純に観客の心情を激しく揺さぶる劇的な構成ではない。むしろそれは、「間（ま）」と「能面の演技」から生まれるのだ。反応の鈍さに焦らされるとき、または無表情の中に意図を探るとき、そうした人と人の“ずれ”があるからこそ、そこに創造のリズムが脈打つ。明確な感情表現ではなく、その一歩手前の、届きそうで届かない距離感こそが、観客の想像を最も刺激するという事実を、私は体で学んだ。

出演者としてこの作品世界に身を置いたとき、創造とは常に「未完成さの中に身を投じる行為」だと気づき得た。完成された美ではなく、曖昧で、震えていて、整っていない、でも確かに血が通っている。その空間こそが、今の私にとって創造の始まりであり続けている。

追悼

フェロー：國藤 進

日本創造学会名誉会員・東京工業大学名誉教授
森政弘先生



東工大で行われた
「ロボコン発祥の地」
記念碑除幕式での森先生
(2019.5.25)

森政弘先生が本年1月12日に享年97歳にてご逝去された。学問ばかりでなく先生の自由な（非真面目な）発想や自在の精神に啓発された者のひとりとして、改めて感謝するとともに、心からご冥福をお祈りしたい。

森先生は、名古屋大学電気工学科卒業後、東京大学生産技術研究所助教授、東京工業大学制御工学科教授、(株)自在研究所代表取締役、日本ロボット学会会長を歴任し、紫綬褒章を授与されている。ロボットコンテスト（ロボコン）創始者として知られ、ロボットの研究で先駆的な研究実績を持つとともに、創造性や仏教に関する著書や講演も多数。早期にロボットハンドや人工心肺の自動制御、人工筋肉や群ロボットの研究開発に着手し、1970年代には「サイバネティックモーション」や「不気味の谷」、「ロボットへの身体図（身体地図）の導入」といった新概念も提唱した。また、自動製糖システムや自然力推進ポートなどの産学連携研究でも実績を残している。

移動大学の創始者川喜田二郎に薫陶を受けた筆者は東工大制御工学科での創造工学演習で「半永久運動をする球体」のアイデアをKJ法とブレインストーミングを使い提案した。このアイデアは森研に配属された岩谷隆一（GKテック所長）により「玉虫」として実現された。この講義の延長上で、ロボコンが制御工学全体の行事に発展した。森先生はロボコンにおける人間教育的意義を強調し、多くの講演で語っている。この経緯は創造学会論文誌14号の巻頭招待論文に記されている。

研究者としては多くの弟子や後輩を育て、学術分野では森の弟子、孫弟子が多く活躍している。

一橋大学名誉教授、UCバークレー校特別名誉教授
野中郁次郎先生



「失敗の本質」、「知識創造企業」、「SECIモデル」などの著述で世界的に著名な野中郁次郎氏（1935年5月10日 - 2025年1月25日、享年89歳）が亡くなった。当学会の研究大会では基調講演で登壇頂き、現在も彼の弟子が本学会で活躍しているので、その関係性について述べる。

「筆者が1992年北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授・情報科学センター長に奉職した際に、第三研究科として総合システム科学研究科の構想があった。1995年に新研究科にもセンターが必要との初代学長慶伊富永の判断で、システム工学出身の筆者が指名された。新研究科の研究科長に誰を指名するかについて相談を受け、3人の文系教授を推薦した。慶伊学長は化学系出身で「暗黙知の次元」のマイケル・ボライニのファンでもあったので、一ツ橋大学の野中郁次郎が選抜された。その理由は日米企業の違いとして、野中教授が形式知と暗黙知が循環する知識創造企業の日米同時出版を控えていたからである。慶伊学長と二人で野中教授を説得し、人事構想を練り、1998年に知識科学研究科がスタートした。野中先生の推薦で社会科学・人文科学の教員も多数採用した。残念ながら2年後に一橋大学に取り返されてしまった。

知識科学研究科の講義ではSECIモデルを中心に話され、教員も全て野中理論との関係性を要求された。日本創造学会で活躍した故徐方啓は野中研のポスドク等を経て近畿大学教授になった。理事会メンバの永井由佳里、川路崇博、豊田貞光、松前あかね、三浦元喜、羽山徹彩、古川洋章らは野中先生やその弟子の薫陶を受けた。野中教授と筆者が新研究科を創設したので、富士通(株)の山本卓真名誉会長から寄付講座をいただいたことも、研究科のスタートを多いに元気づけた。

ひょうひょうとした人柄で知られ、「美味しいものを食べないといいアイデアはわからない」との信念で金沢最高のワイン・レストランで、教員全員ご馳走になった。天国でも多くの先輩・後輩と最高級のワインを飲んでいると思われる。合掌！！

2023-24年度出版の著作賞のエントリーを募集します

著作賞の応募期間は2年毎で、今回の第10回日本創造学会著作賞は2023-2024年度内に発行された著作が対象となります。募集期間は5月15日までの予定です。エントリーフォームはこのニューズレター送付時に添付します。応募の著作や資料の返却はいたしません。

(著作は希望者には1冊返却しますが、エントリー時にその旨を申し出て下さい。著作は査読者が精読しますので、新品同様での返却はできません。)

詳しくは下記「著作賞選考規程」をご確認の上、ふるってご応募下さい。

日本創造学会「著作賞」選考規程

下記の「応募基準」を満たした全エントリー著作に関して、「学会賞選考委員会」が審議して候補を決め、理事会において承認し、ホームページまたはニューズレターで公知する。エントリー期間は、基本的に2年毎とする。受賞件数は著作の質に依存するので明確には定めないが、概略、数件程度を目安とする。

[応募基準]

1. 応募者は、会費完納の学会員であること。その学会員の種類は問わない。
2. **過去4年以内**に、著作賞を受賞した会員は応募できない。
3. 各応募時に同一著者によるエントリーは、1件までとする。
4. 応募著作は、単著または共著または編著・監修とする。共著の場合、応募者が第一筆者またはそれに準ずる内容を担当した筆者であることとする。編著・監修の場合、応募者が編著・監修の筆頭責任者であることとする。
5. 応募の規定年度内に出版されたISBN取得の著作であること。
6. 応募著作の内容は、創造性研究・実践に関する学術的または実践的なものとする。
7. 過去の著作を改訂した再版は応募資格があるが、増刷は応募資格なしとする。

[応募手続き]

I 自薦の場合

1. 学会事務局より送付される、エントリーフォームに必要事項を記載し提出する。
2. 著作概要をA4版2枚以内(2千字以内)にまとめたもの3部(著作のオリジナルな点を明記)を提出する。
3. 審査用に著作を3冊、日本創造学会に提出する。

II 他薦の場合

1. 他者を推薦できるのは選考委員のみとする。
2. 他薦する場合、著者に推薦者より連絡をとり、両名のどちらかがエントリーフォームおよび自薦の場合と同等の形式で著作概要を書き3部を提出する。
3. 審査用に著作を3冊、日本創造学会に提出する。
4. 他薦エントリーの場合、納本やエントリー条件を満たす書類の事務局への送付などは基本的に推薦者が手続きの責任を負う。

※自薦も他薦も、応募書類・2冊の著作・資料の返還は行わない。著者本人の申し入れがあれば、著作1冊を返還する。

[選考基準]

以下の点等に基づいて、選考する。

1. 学術的な価値の高いものであるか。
2. 実践的な価値の高いものであるか。
3. 創造性研究・実践の新たな地平を拓くものであるか。
4. 世界の創造性研究・実践に影響を与えるものであるか。
5. 受賞対象が共著・編著・監修の場合、著作中の本人執筆の割合も考慮し、評価の対象が執筆内容であるか、編集・監修の技術か等、選考委員会が妥当と思われるカテゴリーの賞を選定する。
6. 社会的評価の高いものであるか(下記の諸点に関して社会的評価がわかるものがあれば添付する)。
 - ・他者の研究に引用されている。 ・基調講演やシンポジウム等の文献となっている。
 - ・新聞・雑誌等の書評で紹介されている。 ・海外で翻訳されている。
 - ・インターネット等で言及がある。
7. 応募著作により、学術部門と実践部門に分けて選考することができる。
8. 著作賞の質を守るために、「該当なし」の結論になることもある。

新入会員紹介

入会者（入会順）



氏名	会員種	所属	住所	専門分野
片倉 健	学生会員	慶應義塾大学大学院	神奈川県	システムズエンジニアリング デザイン思考
山口峰生	正会員	株式会社アヤ	神奈川県	ファッションデザイン ユニフォームデザイン
岩崎充浩	正会員	大阪府立西野田工科高等学校 工業デザイン系	大阪府	芸術的思考プロセス

デジタル推進委員会設立のお知らせ

デジタル推進委員会は、日本創造学会の活性化と多様な会員の参画を促進するために設立されました。デジタル推進委員会の活動を通じて、学会の運営改善や会員間の興味喚起、新たな参加候補者の発掘を目指しています。デジタルツールや外部連携を活用しつつ、学会の未来に向けて多角的なアプローチを展開していく予定です。

役員選挙の実施について

次期（2026-2028）役員選挙にご協力ください

2026年度からの新たな体制のための役員（評議員）選挙の投票が実施されます。正会員で会費を納付済の方に選挙人名簿と投票用紙・返信用封筒を郵送でお送りします。

会則12条により評議員は23名が選出されます。投票用紙が届いた方は、期限内の投票にご協力ください。



2025年度の会費納入のお願い

2025年度の会費納入の期限は2月末日でした。未納の方は、下記口座にお振込みをお願い致します。

日本創造学会年会費納入先口座

ゆうちょ銀行（金融機関コード9900） 店番019 店名 019店（ゼロイチキュー店）

当座 0126409 ニホンソウゾウガクカイ

書籍紹介



回り道の進化

生命の問題解決にみる創造性のルール

著者：アンドレアス・ワグナー 訳：和田洋 丸善出版 3500円+税

アンドレアス・ワグナーは、進化と創造性を結びつけ、生命が困難な問題をどのように解決してきたかを解明します。本書では、適応度地形モデルを用いて、遺伝的浮動や性、組換えが創造性を支える仕組みを探ります。また、この原理を自然界から芸術、アルゴリズム、社会まで適用し、人間の創造力の普遍的なルールに迫ります。（2024年8月出版）

事務局メッセージ

地域社会は、私たちの日常を支え個々の可能性を広げる基盤となる重要な場です。今大会では、地域社会の活性化と創造性をテーマに、三矢勝司氏をゲストに迎え「創造性を育む街づくり」についてお話しいたします。

三矢氏による実践的な事例紹介と学術的な洞察は、多くの気づきとインスピレーションをもたらしてくれることでしょう。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニュースレター

2025年4月発行（No.1）

日本創造学会事務局

発行人：豊田貞光

編集担当：比嘉由佳里

〒272-0031 千葉県市川市平田

1-10-2

Tel 080-3465-6152

e-mail: jcs-info@japancreativity.jp

http://www.japancreativity.jp